追加資料１

三雲地域（三雲・吉永・夏見・針・平松・柑子袋）における基準検討過程

平成 25 年４月

市全体の景観づくりの方針に、東海道沿いの区域を位置づけ

・湖南市全体の景観づくりの方針である「湖南市景観づくりの基本方針」において、東海道沿いの区域が、今後、重点的に景観づくりを進める候補地として位置づけられました。

平成 25 年６月～９月

地元懇談会の開催（４回）

・まちづくり協議会役員様、区長様との懇談会を開催し、東海道沿いを景観づくりの重点地区とすることについて協議を重ねました。

地域住民の意向把握を目的にワークショップを開催することとしました。

平成 25 年 12 月～ 平成 26 年１月

住民説明会の開催（東海道沿い６区）

・東海道の街並みを継承することの意義等を説明し、ワークショップの開催等今後の取り組みを周知しました。

そのために、何らかのルールを導入すべきとの意見がありました

平成 26 年３月～５月

景観まちづくりワークショップ（4 回：37 名）

・37 名の参加による４回のワークショップを通じて、地域のまちづくりにおける今後の課題を考え、地元住民にとっての東海道の街並みの価値を再発見しました。

東海道の街並みを将来に継承することが共通の想いであることを確認しました。

平成 27 年１月～２月

東海道景観まちづくり懇談会の開催（２会場）

・まちづくり協議会による景観まちづくり活動実績の発表にあわせ、建築や景観まちづくりに精通した谷口浩志教授（びわこ学院大学）を招き、歴史文化を活かしたまちづくりについて基調講演を開催し、東海道の大切さを再確認しました。

平成 27 年８月～ 平成 28 年１月

東海道の街並みの継承に向けたルールの検討（４回：35 名）

・まちづくり協議会及び区の役員様等（参加者 35 名）のご意見を聞きながら、東海道の街並みを継承するため、建物の建て方などに関するルール（案）を策定しました。

東海道の両側 25mの範囲の敷地で、建物を建てる場合などには、景観のルールに適合する必要があります

平成 28 年６月～

景観ルールの住民説明会を開催